

## 第3章 ビジョンの基本的考え方

### 1 基本理念・めざす姿など

#### (1) 基本理念

○創意と工夫により、豊かさと活力がみなぎり、  
魅力あふれる農業・農村をめざして

○美しく歴史ある農業・農村を次世代に引き継ぐために

第2章の「町農業・農村の現状と課題」で記載したとおり、現状のままでは将来、せたな町の基幹産業である農業が衰退し、ひいては町全体の活力維持が困難になってしまいます。

明治の開拓以来、切り拓いてきた歴史あるせたな町の農村を次世代に引き継ぐためにも、農業者や関係者が、それが主体性を持ちながら、かつ、一体となって取り組むことが必要です。

#### (2) めざす姿（10年後のイメージ）

基本理念の実現を通じ、次のような素晴らしい「せたな町農業・農村」を確立することが可能です。

誰もこの現状にあきらめることなく、この「めざす姿」をイメージして取り組めば、必ずや明るい未来が拓けると信じます。

#### **創意と工夫**

農業者の創意と工夫により、生産性が高く、高品質な農産物の生産とともに、付加価値の高い加工品などが生産・販売されていることにより、「せたな町ブランド」が確立し、農業者の収益性の向上が図られ、儲かる農業が展開されている。

基幹作物である「米」や「生乳」、「肉用牛」、「畑作物」・「野菜」等に加え、自然栽培や有機農業、放牧畜産など特色ある多様な農業が展開され、彩りを添えている。

#### **豊かさと活力**

多様で儲かる農業により、道内（又は道南）でトップクラスの農業産出額が確保され、せたな町の基幹産業として、農業は引き続き大きな地位を占めている。

子供が数多く走り回り、若者からお年寄り、個人経営から法人経営、男性・女性など多様な「担い手」が活き活きと活躍し、農業を核に町が豊かに発展している。

収益性の高い農業と交流人口の増加により、担い手が確保され、町に活力がみなぎっている。

#### **魅力あふれる農業・農村**

農地の利用集積や団地化、基盤整備が進み、効率的な営農環境が整備され、恵まれた環境を活かした魅力あふれる農村づくりが行われ、この魅力を活かしたファーム・イン等の取組により交流人口が増え、農村が維持できる担い手が育っている。

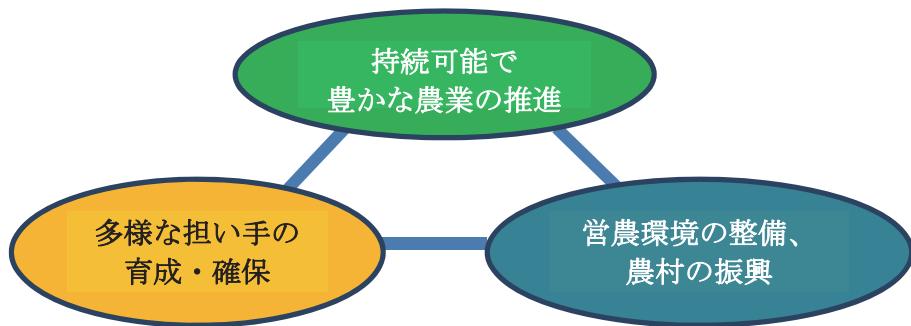
※ 具体的な数値目標は、町内全体の農業者や農業団体等において、例えば、農産物の統一ブランド検討など町内の機運を見定めた上で、次回以降の計画策定時に関係機関・団体と協議の上で検討します。

當農類型や目標年間農業所得、目標年間労働時間については、「せたな町農業経営基盤強化促進基本構想」、地域ごとの中心となる経営体や農地の状況については、「せたな町人・農地プラン」を参照願います。

## 2 基本方向

1の基本理念やめざす姿を実現するため、次のとおり3つの基本方向を設定し、この基本方向に沿って、取組の方向性を示すこととします。

### 【せたな町農業振興ビジョンの基本方向】



## 3 取組の方向性

2の基本方向を元に、取組の方向性として、次のとおり6つの柱を設定します。

この考え方は、せたな町農業の生産力を高め、そして、農村の魅力を高めるためには、農業者や関係者の意欲や考える力である意識、つまり「心」が何よりも重要であり、それが形成された上で、その次に担い手などの「人」、農業生産の土台である「土・農地」、そして、それらの基盤の上に「農・食」である「農業生産技術、儲かる農業づくり」が形成され、さらにその上に、「ブランド・付加価値」、「農村環境」づくりができるという考えです。

つまり、図2の三角形のように、底辺の「心」の部分（関係者の意欲や考える力）が広がらないと、三角形全体の面積である「生産力」とその高さの「魅力」は向上しないという考えにより取組の方向性が積み上がるものと考えます。

### 【基本方向と取組の方向性】

